

学 び 舎 (まなびや)

～清和台南小学校 学校通信 第13号～
平成29年2月16日

新しい力が育っています

～新旧計画委員～



今年度、本校の児童会活動の中心として、さまざまな取り組みを行っている計画委員、2月6日(月)から始まった3学期のハートッピー週間でも、前回同様あいさつ運動活性化のための活動を行っています。その成果もあってこの週はいつもより活発なあいさつが交わされ、毎朝校門に立って下さっている学校安全協力員の方も「今週はどの子もよくあいさつしてくれます。」と話しておられました。

この他にも、計画委員の企画として、「3学期異学年交流」が13日(月)から実施されています。普段なかなか自分たち以外の学年と交流する場面がないことから始まったこの企画、今回は1・2年生、3・4年生、5・6年生と隣り合わせの



1・2年生異学年交流

学年と交流します。実施にあたっては、交流内容を各学級で話し合われた意見を元に代表委員会で話し合い、各クラスに計画委員がルールを説明することになっています。このように、自分たちで企画したことを実施するまでのいろいろな手順が、自治活動を身に着けるための大切な過程となっていて、授業以外での学びの場面を生み出しています。

また、新しい力として、5年生の計画委員も誕生しています。今年度の6年生の計画委員の活動を見て、意欲に燃え立候補した5年生16名の中から、動機や抱負をアピールして投票で選ばれたのが6名です。

2月17日(金)の児童朝会で新旧計画委員の交代を行い、その後、3月の「6年生を送る会」から本格的な活動が始まります。新しい計画委員が児童会の伝統を受け継ぎ、他の委員と協力してどんな企画を立てて実行してくれるのか、楽しみにしています。



新旧計画委員



新 計画委員の抱負

南小がさらに楽しくて過ごしやすい学校になるように、いろいろな計画を立てたいので、計画委員になりたいと思いました。

自分はいつも人に頼りすぎだと思うので、今度は頼ってもらおうほうになりたいと思ったので(計画委員)になりました。

友だちとの仲を深める場を作り、みんなの気持ちも聞いて、新たなルールを決めていきたいと思います。

計画委員になってやりたい事は、運動会や作品展、清南祭りなどの大きな行事を、前年より盛り上げることです。そういう大きな事をするには、日ごろの積み重ねだと思います。

きずなが深まりました

～5年生自然学校～



始業式翌日の1月11日(水)から4泊5日、5年生が自然学校としてハチ高原で活動しました。出発前は「雪は大丈夫？」という声もありましたが、同じ時期から今年一番の寒波が来たこともあってスキーを楽しむには十分すぎるぐらいの積雪がありました。



スキー実習

今回、子どもたちが立てた目標は「集中力を高め、真剣に取り組む、一人ひとり全力を出し、がんばる!!」というものでした。具体的には、「メリハリ(をつける)」「自分の役割を果たす」「友情を深める」ことを意識し、自分たちで自主的に取り組む自然学校でした。

最初は積雪が多く雪に親しむ機会に恵まれていたのですが、目を追うごとに天候が荒れ模様となり、風が強く雪が横なぐりで降るような厳しい環境になってしまったのが残念でした。しかしそのような状況でも、5年生の児童は、自分たちで立てた目標を意識しながら、協力して行動できていました。



班長会議

スキー実習に臨む姿勢や食事係・保健係・美化係の責任感のある活動はもちろんのこと、特に印象的だったのは、実行委員の式の運営や班長・副班長が中心となった班の反省の様子です。

自分たちのその日一日の成果と課題を、それぞれ出し合い、話し合っただけで反省としてまとめ、次の日の活動に活かしていました。お互いのきずなを深めるためには、仲良く遊ぶことも大切ですが、目標に向かって共に協力していくことが最も重要な取り組みになってきます。

来年度、最高学年として、この経験をぜひ学校生活に活用してほしいと期待しています。

本との出会いを大切に

～青少年読書感想文コンクール～

清和台南小の子どもたちがさまざまな場面で活躍していることは、児童朝会や放送による表彰伝達、掲示板などで、今までにも折に触れて伝えてきました。

今回、その中でも特にすばらしかったのが、6年生の中井咲希さんの読書感想文が、高学年の部で兵庫県知事賞に選ばれ、さらに全国コンクールで「全国学校図書館協議会長賞」を受賞したことです。

元々本を読むのが大好きだった中井さんが、今回選んだのが、『ワンダー』(R・J・バラシオ著)という作品でした。顔に大きな病気を持った主人公の気持ちと自分との共通点を考え、それを感想文にまとめ、見事表彰を受けることになりました。本との出会いが、中井さんの内面の成長につながっているのです。



毎学期設定されている読書週間、みなさんいろいろな本を読んで、心に残る作品と出会ってほしいと思います。